

第104回薬剤師国家試験直前 最終チェックポイント!

2月23日(土)、24日(日)に実施される第104回薬剤師国家試験(以下、国試)から、合格基準が『**相対基準**』になり、初めて『**禁忌肢**』が導入されます。不安に感じている受験生も多いと思いますが、薬学の6年間でしっかり倫理観や医療人としての考え方を学修していれば大丈夫です。今回は、第104回国試に向けた『**最終チェックポイント**』として、薬学ゼミナールの科目責任者が全9領域の国試対策を紹介します。

【合格基準の改正点】

2018年8月31日付で発表された『新薬剤師国家試験についての一部改正について』には、『以下のすべてを満たすことを合格基準とすること。なお、**禁忌肢の選択状況を加味する**』と記載されています。

①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた**相対基準により設定した得点以上**であること。

②必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれの配点の30%以上であること。

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問 (複合問題)	60問
衛生	10問	30問	20問	10問 (複合問題)	40問
薬理	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問 (複合問題)	30問
実務	10問	85問	-	20問 + 65問 (複合問題)	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

※実践問題は、「実務」20問、およびそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる

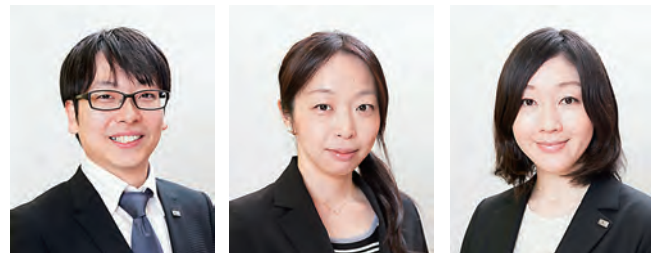
【禁忌肢について】

禁忌肢は、2016年2月4日開催の薬剤師国家試験制度改善検討部会において、下記のように発表されています。

薬剤師には、医療人としての高い倫理観と使命感が求められることにかんがみ、薬剤師として選択すべきでない選択肢(いわゆる「禁忌肢」)を含む問題について、導入することとする。禁忌肢の導入にあたっては、**公衆衛生に甚大な被害を及ぼすような内容、倫理的に誤った内容、患者に対して重大な障害を与える危険性のある内容、法律に抵触する内容等**、誤った知識を持った受験者を識別するという観点から作問することとする。

ただし、偶発的な要素で不合格とならないよう出題数や問題の質に配慮する必要がある。

学校法人医学アカデミー薬学ゼミナール



茂木 雄輔
物理科目責任者



林 美樹子
化学科目責任者



小林 あつみ
生物科目責任者



菊池 聡
衛生科目責任者



猪又 雄太
薬理科目責任者



横井 宏哉
薬剤科目責任者



後藤 健太
病態・薬物治療
科目責任者



尾島 良太
法規・制度・倫理
科目責任者



坂口 努
実務科目責任者

禁忌肢を選択しないためには、時間配分をしっかりと行って、余裕を持って問題を読むことが重要です。

物理

物理は難しい科目と考えている方も多いと思いますが、全問題が難しいということではなく、得点がしやすい問題もあります。得点しやすいポイントを見ていきましょう。

物理化学では、図・表を用いてその場で考える問題の出題が予想されます。既出問題で学修する際は、解答を覚えるのではなく、何を表している図・表なのかをしっかりと考えてください。『熱力学、反応速度論、束一性、分子間相互作用、酸・塩基』が頻出範囲です。

分析・放射化学は、しっかり既出問題を理解し、周辺知識を補完していれば得点しやすい傾向です。『クロマトグラフィー、電気泳動、分光分析、画像診断法』が頻出範囲です。

物理の専門用語に対して苦手意識を持たれがちですが、用語を調べ、意味を分かっておくと、案外すんなり点数を取ることができます！前向きに頑張ってください！

化学

化学の領域は、これまでの国試と同様に『化学構造』が多く出題されること

地域の健康
のために

イオンだからできること。

インターンシップ開催中!

コース詳細は、マイナビ2020、めでいしーんねっと2020から



イオンリテール 薬剤師

